

津波被害の大川小「校舎残して」 卒業生がシンポで訴え

川端俊一 2014年12月7日00時59分



校舎の保存を訴える大川小の卒業生＝東京都渋谷区



東日本大震災の津波で児童の7割が犠牲になった大川小学校（宮城県石巻市）の卒業生6人が6日、東京都内で開かれたシンポジウムで、被災した校舎の保存を訴えた。あの日を語り継ぎたい、との思いからだ。

「映像で伝えるのは簡単だけど校舎があるのとないのとは伝わり方が違う。風化させてはいけない」と同小で妹を亡くした佐藤そのみさん（18）。紫桃（しとう）朋佳さん（16）も妹を亡くした。「思い出の校舎がなくなるのは大川っ子として黙ってられない。見るだけで学べる場所にしたい」

学校で津波に襲われて助かった只野哲也さん（15）は「なぜ命を守れなかったのか。忘れないためにも校舎は残して」と語った。

大川小では児童と教職員計80人が死亡し、児童4人が行方不明となった。一帯の住宅は撤去されたが、壁が崩れた校舎は被災時のまま残っており、今も追悼に訪れる人が絶えない。

見るのがつらいと撤去を求める声もあるが、6人は話し合い、保存への思いを高めてきた。ともに話し合ってきたNPO法人の佐藤秀明さん（58）は「救える命を救えなかったことを大人に気づいてほしい。子どもたちはそのことを言い続けている」と語る。（川端俊一）

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © 2014 The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.